

発見!

牛久のお宝

問 文化芸術課(牛久シャトー内) ☎874-3121

第25回 下根の庚申塚



庚申塚



石碑(庚申塔)

大正9(1920)年に下根地区の人々によって建てられました。この石碑の後ろには、寛政12(1800)年の石碑も残されています。

下根保育園の正門脇に、高さ1mほどの小さな塚があります。これは「庚申塚」と呼ばれるもので、中国から伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいてつくられました。庚申信仰では、人間の体内にいるという三尸虫という虫が、60日に一度巡ってくる庚申の日の夜、寝ている間に神様にその人間の悪事を報告しに行くこととされることから、それを妨げるために、夜通し眠らないで掛軸をまつて拝

み、宴会をする風習がありました。この集まりは「講」と呼ばれ、江戸時代には広く民間に普及しました。下根地区では、2年に1回、崩れた塚を地域の人々で盛り直す作業を行っていたそうです。掛軸は数十年前に栃木県の神社に返して講は行われなくなりましたが、塚の上にある石碑にはしめ縄が掛けられており、庚申塚が今も地域の人々の信仰の対象になっていることがうかがえます。

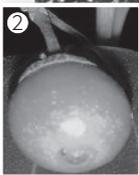
里山の樹木

問 都市計画課 ☎内線2524

第64回 ニッケイ



①



②

①市民の木No.46ニッケイ(令和元年10月24日)※幹基部の縦裂は40年以上前の火傷痕
②ニッケイの成熟前果実(平成23年10月4日)

この木は令和2年4月1日に「市民の木No.46」に指定されたものです。令和元年10月の調査では幹周3・03m、樹高20・0mでした。ニッケイは中国南部原産の常緑高木、日本へは享保年間(1716〜1735)に輸入され、薬用や香辛料として利用。

江戸末期に栽培が流行ったそうです。牛久市では、この木を含め古木が2本確認されている。希少木です。葉は革質で長さ6〜15cm。花は5〜6月で淡黄緑色、長さ約5mm。果実(画像②)は楕円形で長さ11mm、10〜11月に黒紫色に成熟。根皮や樹皮は辛く香気があり、桂皮(シナモン)として薬用や香辛料に使用。菓子の「ハッ橋」の利用は有名です。
※市民の木とは長い年月をかけて成長し、私たちの生活の一部として、その地の歴史や文化を象徴している貴重な樹木です。ぜひ市内を散策し、訪ねてみてください(掲載日時点37本指定)。
【資料提供】NPO法人うしく里山の会(文章・写真・渡辺泰)

文芸さろん | 卯月 |

茎細くたよりなければ副え木して
次なる花蕾の出ずるに備ふ 匿名希望
幼な子は消えゆくまでもしゃぼん玉
追いかけて行く春風の中
啓蟄や友への便り書いてをり 宮内さん
路の臺詠み描き味わう里だより 堀さん
春風に吹かれて遊具子らを待つ 和多田さん
暖かく桜の季節チラホラと 月田さん
研ぎ終へて切れ味どうか惹きざむ サッコ
入学のコロナに負けぬ笑顔かな あおたん
春の月牛久シャトーを照らすなり 長沢さん



◀イラスト/宮内さん

〈次回募集テーマは「春〜初夏」〉

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など
【あて先】〒300-1292 牛久市中央3-15-1
「広報うしく文芸さろん」係 FAX:873-2512
E:kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp
【記載事項】作品、氏名、電話番号
匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)



※掲載作品は担当課にて審査の上、決定します。投稿いただいた作品が必ず掲載されるわけではありません。

「牛久市版レットデータブック追補版 牛久における絶滅のおそれのある野生生物」販売中 ※お求めは都市計画課まで(1,350円)